

陣地構築の進捗に従ひ既に軍、師團、各部隊に於て行ふ教育訓練を一通り實施せり

六爾後は此等諸要件の完遂に向ひ邁進するの域に達し在りたる所突如第九師團の轉進に伴ひ師團は島尻地區に轉移を命ぜられ各部隊は十二月九日乃至十日夫々原駐地出發十日乃至十一日頃夫々新駐地島尻地區に到着新任務につけり

七現在迄に於ける主として各歩兵聯隊の編制裝備概要左の如し  
聯隊本部

歩の二大、一大は歩四中 M G 一中 BiA 一小

歩の一中は小銃約一七〇 L g 九、〇一二

M G 中は M G 〇、BiA 一小は BiA 二

歩砲大、一大は RiA 一中 T A 一中

RiA 一中は RiA 四 T A 一中は T A 四

通信中一、一中は兵力約一六〇

八住民は食糧供出に陣地構築作業に或は又各種勞務に能く軍事を理解し協力を惜しまざりき

三島尻地區到着より敵沖繩本島進攻初期迄

九師團は島尻地區轉移後概ね第九師團警備地區を繼承し概ね左記要圖第二の如く各部隊を配置し警備を擔任すると共に作戰準備に邁進す  
六第九師團の實施せる築城進度は師團繼承の結果に徴するに約三十六センチにして加ふるに北部所謂ドタン岩地帯にして作業比較的容易なるに反し南部は硬岩石地帯にして多量の爆薬を使用する非ざれば作業極めて困難の地帯なりしにも拘はらず爆薬僅少にして作業遅遅として進捗せず加之敵の進攻速やかなりしを以て築城完了の中途にして敵を迎ふるの止むなきに至りたるは悔いても尙余りありと云ふべし

土轉進後敵進或迄の期間僅少なりしと築城の進渡前項の如く遲滯しありし關係上教育訓練は之を徹底的に實施する事を得ず單に團隊長の圖上訓練を一回實施し得たるに過ぎず其の他は各部隊毎に築城即訓練の主旨に基き又は部分教育を實施せしむたる狀況程度にして教育訓練を完了せずして敵を迎へたる狀況なり

十二月十一日各部隊の編制改正を命せられ主として歩兵聯隊の編制を左の如く改編せらる

聯隊本部

歩三大、歩一大は歩三中、M G 一中 B A 一小

歩一中は小銃約一七〇、L g 九〇一〇

M G 一中は M G 一〇

B 1 A 一小 B 1 A 二但し B 1 A 二は輕迫三

聯隊砲一中、一中は聯隊砲四

速射砲一中、一中は速射砲四

通信中一中、一中は兵力約一六〇

十三年和二十年一月一日以降敵偵察機殆ど連日又大小規模の空襲を屢々

受けたるも警備狀況は殆ど完全にして損害も亦極めて僅少なり

由任民は食糧供出に對戦車障害物構築に或は又各種勞務等積極的に

く軍事を理解し協力せり

第三作戦経過の概要

一、敵沖繩本島上陸初期より

原駐地出發首里地區轉進途

去昭和二十年三月二十三日突如南方上空に敵機大編隊現出〇七〇〇頃より沖縄全島に對し爆撃を開始す師團は即時甲號戰備を下命戰鬥配備に就く

去三月二十四日朝多數の敵艦船近迫し艦砲射撃を開始したるを以て愈々待望の敵の本格的攻勢なりと判断し戰備強化に努め要圖第二の如く配備を完了す

敵の銃爆撃及艦砲射撃は逐日熾烈の度を加へ其の目標は最初飛行場及村落なりしも逐次陣地破壞に轉向せらるる中に小祿飛行場、與座、糸滿、湊川東風平地區は熾烈なり

去戦情判断の結果敵は島尻地區小祿糸滿正面には上陸する事をきも一部を以て湊川米須海岸に上陸するやも測られざる予想の下に歩兵第

八十九聯隊を以て湊川附近歩兵第三十二聯隊を以て米須附近に去、一部兵力を増加防禦力の強化に努むると共に軍に於ても三月二十八、九日頃に亘り一部砲兵を湊川正面に轉用し敵の上陸に備へらるる所あり

去敵は三月二十七、二十八の兩日に亘り〇七〇〇頃より一部艦船母艦を以て湊川米須海岸に對し上陸の企圖を示したるも結局北谷方面よりする至上陸の陽動に過ぎざりき

去四月一日に亘り敵は〇九〇〇大型舟艇約一五〇小型舟艇約六〇を以て嘉手納北谷海岸に上陸す敵總兵力約七師團にして一四〇〇頃既に北谷、佐久川、中飛行場、吳富士、屋長、伊良場、座喜味の線に進出す

去軍命令に基き四月十一日夜歩兵第二十二聯隊を小祿地區より抽出し第六十二師團長の指揮下に入り首里周邊地區集結の爲小祿を出發せしめ一時疎下を脱す

去、爾後四月二十二日に至る間敵の島尻地區再上陸を顧慮し各部隊をして陸地の強化に努めしと共に特に北正面に對し新に高良當銘志太伯

波平武官保榮次附近に毒藥し有尋に備ふる所あり  
二十五、第六十二師團正面の状況の如くならざる状況に鑑み師團は電の企圖に基き逐次同正面に移動準備を整ふると共に四月二十日戰鬥司令所を津嘉山に推進し作戰を準備す

二十六、四月十七日歩兵第二十二聯隊は第六十二師團長の指揮を脱し原所屬に復歸せしむべき軍島台を受領すると共に右兵團として第六十二師團と逐次交代し中間附近より東方地帯を確保すべき命令を受領したるを以て歩兵第二十二聯隊を以て和字慶一上原一榎原の線を確保し（後状況の急迫並に聯隊長の意見具申により我部一小波津一翁長一幸地の線を改む）師團主力の進出を掩護せしめ主力を概ね左の如く逐次第一線に進出せしむ

師團戰鬥司令所

四月二十九日 首 尾

歩兵第八十九聯隊第三大隊

四月十五日 連玉森（師團直轄）

歩兵第八十九聯隊

四月二十八日 新川南風原附近

（第二大隊は四月三十日復歸す）

歩兵第三十二聯隊第一大隊 四月二十三日 小波津（師團直轄）

歩兵第三十二聯隊（II III 欠） 四月二十七日 翁長幸地

歩兵第三十二聯隊第二大隊 四月二十六日 前田北端賀屋支隊と交代

師主力（I 含む） 四月二十八日 前田北端より東方三叉路附近迄確保

師團各部隊原駐地出發後四月二十八日頃<sup>62D</sup>正面進出迄の行動概要及

同日頃<sup>62D</sup>に於る師團全般態勢概ね左記要圖第三の如し

二十五、原駐地島尻地帯出發より總攻撃直前迄に於る主として各歩兵聯隊の戰鬥經過の状況概ね左記の如し（要圖第三参照）

師團司令部、四月二十九日首尾に前進す

歩兵第二十二聯隊

一聯隊は四月十一日<sup>62D</sup>長の指揮下に入り同十七日原所屬に復歸す

當時聯隊は連玉森周邊地帯に在りたるを以て師團長は和字慶一

上原一榎原の線を確保し師團主力の首尾附近進出掩護を命ず此の時

聯隊長は<sup>RI</sup>及其の他の部隊を指揮して連玉森に來り、同時敵